

長野県産シダ植物の新産地 (11)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some pteridophytes in Nagano Prefecture (11)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

キヨスミコケシノブ (コケシノブ科)

Hymenophyllum oligosorum Makino 写真1

・王滝村棚崩 1000 m 2016年9月17日
NAC181767

やや明るい急斜面の岩場を歩いていたとき、岩に着生したコケシノブ類を見つけたのでよく見ると、葉面の裏の軸上に毛を密生しており、キヨスミコケシノブであった。キヨスミコケシノブは樹木に着くことが多いとされるが、ここでは岩に多く着生していた。包膜は不規則に切れ込んでいた。キヨスミコケシノブは主に西日本のやや暖かいところに生育しており、長野県では南部から木曽谷に生育しており、これまで王滝村での記録はなかった。

アオホラゴケ (コケシノブ科)

Crepidomanes latealatum (Bosch) Copel

・小谷村大綱 300 m 2016年10月30日



写真1 キヨスミコケシノブ 王滝村
2016年9月17日

NAC181774

大きな岩場の割れ目に着生してアオホラゴケが生育していた。アオホラゴケはハイホラゴケ *Vandenboschia kalamocarpa* (Hayata) Ebihara に似て根茎に毛があり、また偽脈があることからハイホラゴケと容易に区別ができる。暖地性のシダで県南部では時折見られるが、県北部ではこれまでに記録がなかった。

ウチワゴケ (コケシノブ科)

Crepidomanes minutum (Blume) K.Iwats

・小谷村大綱 300 m 2016年10月30日
NAC181773

アオホラゴケの近くにウチワゴケが群生していた。ウチワゴケは葉身が小型の半円形をして団扇に似ていることから名づけられており、容易に見分けられる。暖地性のシダだが、時折、松本市や塩尻市など標高の高いところでも見られる (上野・上野 2005)。

ミカワコケシノブ (コケシノブ科)

Crepidomanes mikawanum (Seriz.) Seriz. 写真2

・飯田市南信濃 1000 m 2016年7月10日



写真2 ミカワコケシノブ 飯田市 2015年10月10日

* 上野 勝典・上野 由貴枝

〒399-0011 長野県松本市寿北 2-2-38

NAC180124 藤田淳一氏採取

前回の新産地報告(上野・上野 2016)において、ミカワコケシノブはまだ確定ではなかったが、その後芹沢俊介氏に現地で本種を見ていただき、ミカワコケシノブで間違いないとの同定をいただいたので、ここに改めて報告する。なお、上記標本は芹沢氏といっしょに同行いただいた藤田淳一氏の採取によるものである。

オニヒカゲワラビ(メシダ科)

Diplazium nipponicum Tagawa 写真3

・旧山口村黍生 300 m 2016年10月22日
NAC181792

山口村は以前長野県だったが、現在では岐阜県となっている。山口村は暖地性の植物が多くみられる地域であるが、オニヒカゲワラビの記録はこれまでになかった。明るいスギ林の斜面に点々と10株程度が見られた。近くでは飯田市南信濃で最近見つかり(上野・上野 2015)、岐阜県側にも自生地があるものと思われる。今後、温暖化に伴い木曽谷に入ってくる可能性がある。

ウスバミヤマノコギリシダ(メシダ科)

Diplazium deciduum N.Ohta et M.Takamiya 写真4

・旧山口村黍生 300 m 2016年10月22日

旧山口村の溪流沿いを歩いていたとき、2株ほどのウスバミヤマノコギリシダを発見した。ミヤマノコギリシダによく似ているが、葉質が薄く、ミヤマノコギリシダ *D. mettenianum* (Miq.) C.Ch.の変種とする見方もある。以前、南木曾町、大桑村でも観察したことがあり(上野・上野 2011)、このあたりが分布の北限になる。西日本の暖地に生育する日本固有の植物である(海老原 2017)。

タカオシケチシダ(オシダ科)

Athyrium decurrentialatum f. *platyphyllum* (H.Itô) Seriz.

・大鹿村大字鹿塩 1400 m 2017年9月9日

NAC185696

・天龍村倉の平 350 m 2017年12月3日

NAC185688

タカオシケチシダはシケチシダの有毛品で、シケチシダ *Athyrium decurrentialatum* (Hook.) Copel. よりも暖かいところで生育しており、これまで南木曾町、根羽村で確認していた(上野・上野 2016)。大鹿村では標高が高く、暖地性のシダが見つかることは珍しく、見られたのは一株のみであった。天龍村で

は、数株がまとまって生育しており、周囲にはフモトシダ、ハカタシダなどの暖地性シダが多く見られた。

イワヒメワラビモドキ(仮称)(コバノイシカグマ科)

Denstaedtia punctilobula (Michx.) T.Moore 写真5

・辰野町大字伊那富 1100 m 2017年7月16日
NAC185701

林道を車で走行していたとき、イワヒメワラビ *Hypolepis punctata* (Thunb.) Mett. ex Kuhn によく似たシダが法面に林立しているのを見つけた。よく見てみると、イワヒメワラビによく似ているが、葉身が細く基部で縮小し、これまでに見たことのないものであった。その後の検討により、国内では初めて見つかった北米原産の外来種であることが判明したので、イワヒメワラビモドキと呼ぶことにした。後述のアメリカシラネワラビやワタナベシダとも混生しており、別に詳細を報告する予定である。

タカネメンマ(オシダ科)

Dryopteris goldieana (Pursh ex Goldie) A.Gray subsp. *monticola* (Makino) Fraser-Jenk × *D. sichotensis* Kom. 写真6

・大町市大谷原 1300 m 2016年7月31日
NAC181775

林道沿いを歩いていると、ミヤマベニシダ *D. monticola* (Makino) C.Ch. が多く群生していた。過去にこの周辺にカラフトメンマ *D. sichotensis* Kom. が生育していたとの情報があったため、探していたところ、カラフトメンマによく似て羽片が下までつき、葉身が長楕円形で葉柄がやや短めのものがときおり見られたものの、それらの葉柄の鱗片はミヤマベニシダによく似た濃い褐色をしていた。カラフトメンマの鱗片は薄い褐色をしており、カラフトメンマとは言えないものであった。後日、大塚孝一氏と芹沢俊介氏に確認いただいたところ、カラフトメンマとミヤマベニシダの交雑種であるタカネメンマとのことであった。タカネメンマはこれまで、長野県槍ヶ岳で採取された標本があるのみ(大塚 2013)であることから、新産地となる。当地では、逆に典型的なカラフトメンマを見つけることができず、以前生育していたカラフトメンマがタカネメンマに入れ替わっている可能性が高い。

イワヘゴ(オシダ科)

Dryopteris cycadina (Franch. et Sav.) C.Ch.



写真3 オニヒカゲワラビ 旧山口村 2016年10月22日



写真4 ウスバミヤマノコギリシダ 旧山口村
2016年10月22日



写真5 イワヒメワラビモドキ 辰野町
2017年7月16日



写真6 タカネメンマ 大町市
2016年7月31日

・小谷村大綱 300 m 2016年10月30日
NAC181785

急斜面のスギ林を歩いていたとき、沢筋の湿ったところに一株だけイワヘゴが生育していた。本種はオオクジャクシダ *D. dickinsii* (Franch. et Sav.) C. Chr. によく似ているが、葉面の色がやや濃い緑色で葉脈のへこみは少なく、胞子嚢群は軸寄りに付き、葉柄基部の鱗片は黒っぽい褐色をしている。暖地性のシダだが、近年県南部を中心に時折見つかるようになった。北部では今回がはじめての記録となる（長野県植物目録編纂委員会 2017）。

アメリカシラネワラビ（オシダ科）

Dryopteris intermedia (Muhl. ex Willd.) A.Gray

・辰野町大字伊那富 1100 m 2017年7月16
NAC185697

林道の伐採された法面に点々とアメリカシラネワラビが生育しているのを見つけた。本種は北米原産の外来植物で、日本では2003年に岡山で初めて確認され、その後2006年に長野県上松町で見つかった（上野・上野 2007）。葉は草質で裂片の先端はノギ状になり、葉柄基部の鱗片は薄い褐色のものが多く、根茎近くは濃い褐色が混じる。中軸と羽軸の交差するところに鱗片が宿在する傾向があり、中軸に毛があるので、よく似ているワタナベシダと明瞭に区別ができる。本種と在来のおくまワラビ *D. uniformis* (Makino) Makino との間に交雑が確認されており（上野他 2017）、今後外来のシダ植物の動静に注意が必要である。

ワタナベシダ（オシダ科）

Dryopteris carthusiana (Vill.) H.P.Fuchs



写真7 ナガバノイタチシダ 小谷村
2017年11月12日



写真8 アイホソイノデ 飯田市
2017年8月19日

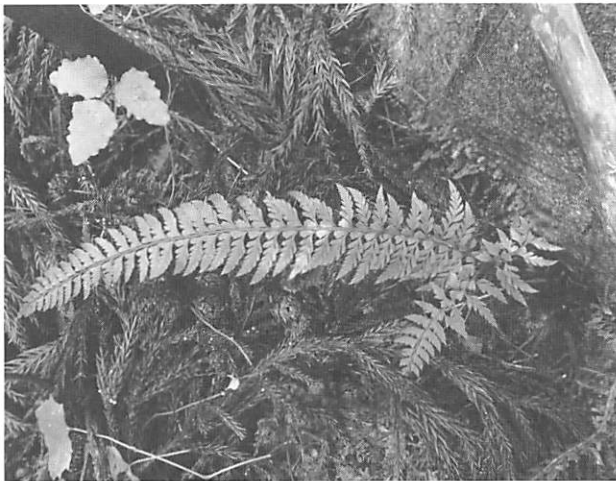


写真9 オオシュモクシダ 高森町 2017年10月8日



写真10 アオネカズラ 飯田市
2016年11月5日

・辰野町大字伊那富 1100 m 2017年7月16日
NAC185699

上記アメリカシラネウラボの生育している法面に、それとは別にワタナベシダが生育していた。本種も北米、欧州原産の外来植物で、これまで長野県では南木曽町と上松町で見つかった（上野・上野 2009）。アメリカシラネウラボとよく似ているが、葉質はやや硬く、切れ込みも浅い。鱗片は薄い褐色で、中軸の毛がない。

ナガバノイタチシダ（オシダ科）

Dryopteris sparsa (Buch. -Ham. ex D.Don) Kuntze var. *sparsa* 写真7

・小谷村大字北小谷 310 m 2017年11月12日

NAC185684

スギ林の斜面に一株だけナガバノイタチシダが生育しているのを見つけた。葉質はやや柔らかく、ベニシダ *D. erythrosora* (D.C.Eaton) Kuntze のような表面で、葉身は卵状長楕円形、最下下向き第一小羽片がイタチシダ類のように大きくなり、葉柄が長い。羽片に袋状の鱗片が無いのが大きな特徴である。本種は暖地性のシダで、これまで長野県では南部の阿南町での報告があるが（長野県植物目録編纂委員会 2017）、大塚孝一氏によると標本が確認されてい

ないとのことで、今回のものが確実に生育の確認できる例となる。県南部では愛知県東栄町でも見たことがあり、関東以西の太平洋側を中心に分布しているが、小谷村に近い新潟県、富山県での分布は無く(海老原 2017)、ナガバノイタチシダの分布のほぼ北限となる。

イノデ (オシダ科)

Polystichum polyblepharon (Roem ex Kunze) C. Presl

・小谷村大綱 300 m 2016 年 10 月 30 日
NAC181786

イノデ類は数種が長野県内で見られ、本種は暖地性のイノデ類で県南部を中心に時折見られる。葉柄基部に辺縁に突起がある広い卵型の茶褐色の鱗片を密につける。県中部でも稀に見つかることがあるが、県北部での記録は珍しい。

アイホソイノデ (オシダ科)

Polystichum × *fujisanense* Seriz 写真 8

・飯田市上村程野 1600 m 2017 年 8 月 19 日
NAC185692

石灰岩の多い沢沿いに、ホソイノデ *Polystichum braunii*(Spenn.) Fée や トヨグチイノデ *P. ohmurae* Sa. Kurata が生育していたが、その一部に両社の中間的な形態をしたシダが数株生育していた。葉身は長楕円形で基部がやや縮小し、葉面にホソイノデのような光沢がある一方、胞子嚢群は辺縁寄りだった。芹沢俊介氏に標本を見てもらったところ、両者の雑種のアイホソイノデとのことだった。アイホソイノデは山梨県富士山の 1 か所でのみ芹沢俊介氏によって記録されており、今回の場所が日本で 2 例目となる。

オオシュモクシダ (オシダ科)

Polystichum tripterum f. *subbipinnatum* H. Itô 写真 9

・高森町大島山 810 m 2017 年 10 月 8 日
NAC185691

長野県植物研究会の例会観察会において、スギ林を歩いているときに、斜面にジュウモンジシダ *Polystichum tripterum* (Kunze) C. Presl のさらに 1 回多く切れ込んだ型が一株生育しているのを見つけた。本種は突然変異として突発的に発生したものと思われる。ときおり見られるようで、品種として名前が付いている(海老原 2017)。知人から小谷でも見たと教えていただいた。

アオネカズラ (ウラボシ科)

Polypodium niponicum Mett. 写真 10

・飯田市南信濃和田 400 m 2016 年 11 月 5 日
NAC181784

かなりの急斜面の岩場にアオネカズラが大きな群落をつくっていた。オシャグジデンダ *P. fauriei* H. Christ やエゾデンダ *P. sibiricum* Sipliv. に形はよく似ているが、より大型でビロード状の毛を密生し、根茎が太い緑色をした美しいシダである。本種は天龍村の数か所で大木に着生しているのを見ているが、天龍村以外での記録はなかった。

謝辞

シダ植物の同定ならびに本報告の作成にあたり、標本の同定と貴重な助言をいただきました長野市の大塚孝一様に心より感謝の意を表します。ミカワコケシノブ、アイホソイノデ、タカネメンマの同定をしていただきました芹沢俊介様には心より感謝の意を表します。ミカワコケシノブの現地観察に同行いただきました松本市の藤田淳一様には心より感謝の意を表します。イワヒメワラビモドキの同定におきまして、貴重な情報をいただきました国立科学博物館の海老原淳様には心より感謝の意を表します。

引用文献

- 海老原淳 (2017) 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研.
長野県植物目録編纂委員会 (2017) 長野県植物目録. 長野県植物目録編纂委員会.
大塚孝一 (2013) 長野県のシダ植物雑記 (10). 長野県植物研究会誌 46: 101-108.
上野勝典・上野由貴枝 (2005) 長野県産シダ植物の新産地 (2). 長野県植物研究会誌 38: 133-136.
上野勝典・上野由貴枝 (2007) 長野県産シダ植物の新産地 (4). 長野県植物研究会誌 40: 237-240.
上野勝典・上野由貴枝 (2009) 長野県産シダ植物の新産地 (5). 長野県植物研究会誌 42: 71-74.
上野勝典・上野由貴枝 (2011) 長野県産シダ植物の新産地 (6). 長野県植物研究会誌 44: 37-40.
上野勝典・上野由貴枝 (2015) 長野県産シダ植物の新産地 (9). 長野県植物研究会誌 48: 79-80.
上野勝典・上野由貴枝 (2016) 長野県産シダ植物の新産地 (10). 長野県植物研究会誌 49: 91-94.

上野勝典・上野由貴枝・大塚孝一・芹沢俊介 (2017)
外来シダ植物と在来オシダ属（オシダ科）との

推定新雑種カツモウシラネワラビ. 植物地理・
分類研究 Vol.65, No.2 : 103-106.